

## 官・学・民・民の協働による西部パソコンサロン

パソコンわかばくらぶ 代表 小林 里加

e-mail info@wakaba-club.net

キーワード：パソコンサロン、キャリア教育、協働、ボランティア

### 1. はじめに

我々、「パソコンわかばくらぶ」が平成17年より運営している「西部パソコンサロン」における工夫及び成果を紹介する。

### 2. 西部パソコンサロンの概要

- 西部パソコンサロンの概要は以下の通りである。
- ・内容：ボランティアによるパソコン学習のサポート  
パソコンの基本操作の習得や相談を主とし、ホームページ閲覧、メールの送受信、簡単な文書作成について指導する。
- ・開催日：毎月第二土曜日 13:30～16:30  
(平成17年4月～)
- ・会場：静岡市西部生涯学習センター・第四集会室
- ・利用料：200円／回
- ・参加者：静岡県立静岡商業高等学校情報処理部1年生約10名、市民ボランティア約10名、パソコンわかばくらぶスタッフ3名
- ・相談者：約20名／月
- ・主催：静岡市西部生涯学習センター、パソコンわかばくらぶ



写真1 パソコンサロン風景

### 3. 目的

#### 3. 1 市民同士の交流と助け合い

##### (1) 地域交流

市民ニーズの高いITを切り口に市民同士の交流を図る。

##### (2) 異世代交流

現代社会で希薄になっている異世代交流を、高校生を巻き込むことで実現させる。

#### 3. 2 高校生のキャリア教育支援

##### (1) プレゼンテーション能力の養成

相談者にパソコンを教えるという行為を通じ、“人に伝える、理解してもらう力”が自然と身につく。

### (2) コミュニケーション能力の養成

人との接し方だけでなく、“相手の話を引き出す力”や“自分の考えを伝える力”を養える。また年輩の方と接することにより、年輩者を敬う心を醸成させる。

### (3) 健全な勤労観の育成

ボランティア活動を通して、働くことの楽しさや両親への感謝の気持ちを育む。



写真2 ボランティア養成講座に参加している高校生

### 4. 特徴及び工夫している点

#### 4. 1 官・学・民・民による協働

パソコンサロンは、静岡市西部生涯学習センター、静岡県立静岡商業高等学校情報処理部1年生、市民ボランティア、パソコンわかばくらぶの四者で構成している。官（生涯学習センター）は会場とパソコン、民（パソコンわかばくらぶ）はパソコンスキルとボランティアの活用ノウハウを提供し、主役である学（高校生ボランティア）・民（市民ボランティア）を盛りたてている。

#### 4. 2 ボランティア養成講座の開催

西部パソコンサロンは毎年ボランティアを新規募集している。年度第一回のサロンの前に事前説明会を開催。顔合わせやボランティアの心得を習得することで、初めての方でも参加しやすくしている。



写真3 わからないことはお互いに助け合い

#### 4. 3 相談ブースは得意分野に

会場はインターネット、ワード、エクセル、持ち込み相談のブースに分けている。受付時に相談内容を聞き取り、相談内容に応じてボランティアを割り振り、彼らの得意分野を活かせるように配慮する。高校生はエクセルに特化。

#### 4. 4 市民ボランティア（社会人）によるサポート

相談者の人数にもよるが、高校生は社会人とペアで担当してもらい社会人には高校生ボランティアのサポートをしてもらう。

#### 4. 5 交流スペースの活用

相談に乗るだけでなく飲食スペースを設けて、お茶を飲みながらお菓子を食べながらお話をできるような空間を作り交流を促す。



写真4 交流スペース

#### 4. 6 事後アンケートの実施

相談者、ボランティアとともにアンケートを実施。困ったことや感想などを聞き取る。高校生については、毎月生徒の様子を顧問に報告し、課題だった点の指導やケアをお願いしている。

### 5. 成果

#### 5. 1 地域交流、異世代交流の実現

西部パソコンサロンは今年で7年目を迎える、地域に愛された事業ある。リピーターも多く、高校生の参加は相談者に好評である。「よく教えてくれた」と満足度も高い。中には受付時に生徒を指名したり、お菓子を差し入れてくれる相談者もいる。



写真5 交流スペースで相談者と歓談

#### 5. 2 自分に不足する知識の明確化

ボランティアは質問されることで自分のわからぬことが明確になり、「次回はちゃんと教えられるようになりたい」と学習意欲が増す。他の学習に対しても積極的になる。

#### 5. 3 ボランティア同士の情報交換

高校生と社会人ボランティアでは得意分野が異なり、互いに補完している。そうした中で年輩者に対する敬意や感謝の気持ちが自然と醸成される。一方で、音楽のダウンロードや保存などは高校生の方が得意で社会人が教えてもらうこともある。社会人ボランティアはシニアの方が多く、ボランティア間でも異世代交流が実現している。

#### 5. 4 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上

高校生は、最初の頃「相談内容を引き出すことに苦労し、説明がうまくできない」と反省することが多い。が、回数を重ねるごとに、説明が上手になり、交流を楽しむ余裕が生まれてくる。

#### 5. 5 ボランティア活動で得られる充実感

相談者が満足して帰る姿を見て、高校生は「人の役に立った」「喜んでもらえた」ことにやりがいを覚える。「次回もまた参加したい」という感想をもらうと、働くことの楽しさや喜びを知る一助になればと思う。



写真6 学校で学んだことを活用した  
西部パソコンサロンのポスター制作

#### 6. 今後の課題

課題は、第一に月に一度の開催のためボランティア同士のつながりを持ちにくい点である。更に相談者が多い時には、ボランティア同士で話をする時間を取りづらく交流に限界がある。第二に相談に来る市民が少しするスキルアップするのに対し、ボランティアにはスキルアップの機会がない点である。パソコンわかばくらぶの活動ではサポート（市民ボランティア）勉強会を開催しているので、パソコンサロンでも同様の勉強会が開催できることが望ましいと考える。

西部パソコンサロンは、長い間市民の皆さんに喜ばれている事業である。できるだけ長く継続できるようこれからも努力していきたい。